

## 天声人語

米国で活躍する政治学者ヤシヤ・モンクさんは、世界にはびこるポピュリズムの危険を訴え続けている。来日した時のシンポジウムで語っていた。「多くの国を訪れましたが、ポピュリズムの台頭が見られない国に来たのはこれが初めてです」▼トランプ大統領の米国、欧州連合離脱に揺れる英國のほか、ハンガリーやブラジルなどでもポピュリズムが広がる。そんな潮流から日本は幸いにも免れている。欧米の専門家からよく聞く指摘である▼大衆の情緒を利用するこの政治手法について、モンクさんは以下のような特徴があるとする。私が聞くが國民を代表しており、反対勢力は悪だと決めつける。司法をないがしろにしメデイアを敵として扱う。少数者の権利を無視する——我が首相を見ても、旧民主党が政権にいた時代を「悪夢」と言いい続けている。安保法をめぐっては従来の憲法解釈をないがしろにした。あくまで程度問題ではないか。モンクさんの言葉は半分正しく、半分間違っている気がする▼安倍政権があす憲政史上最長となる見通しだ。第2次政権の7年は非ポピュリズムというより、半ポピュリズムともも言うべき時期だった。米国並みのひどいポピュリズムをもたらす孵卵器だったと、将来嘆くことにならなければいいが▼SNSに現れる社会の分断、経済の停滞、移民への嫌悪……。世界に広がるそんな傾向が、ポピュリズムの温床になつているとモンクさんは指摘する。どれも日本に無縁とは言い切れない。

2019・11・19